



平成27年11月13日

各 位

会 社 名 昭和ホールディングス株式会社  
代表者名 代表執行役社長 重田 衛  
(コード番号 5103 東証第二部)  
問合せ先 執行役財務総務担当 庄司 友彦  
(TEL. 04-7131-0181)

【特別損失】減損損失の発生、及び、  
繰延税金負債の取り崩し、並びに  
平成28年3月期第2四半期累計期間連結業績予想値と実績値の差異、と  
平成28年3月期（連結）通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年3月期第2四半期決算を確定する過程におきまして、減損損失の発生と繰延税金負債の取り崩しを行うこととなりましたのでご報告いたします。

また、平成27年5月15日に公表いたしました平成28年3月期第2四半期（平成27年4月1日～平成27年9月30日）の業績につきましても予想値と実績値に差異が生じたので下記の通りご報告をするのと同時に、当該差異の発生に伴い、平成28年3月期（連結）通期業績予想につきましても併せて修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の計上

当社は、当社の保有する固定資産について、必要となる資産除却債務を見積り計上しております。当該固定資産は主に、当社の行うゴム事業並びにスポーツ事業に使用されており、今後も長期的且つ継続的に使用される予定となっております。平成28年3月期第2四半期決算を確定するにあたり、これらの事業から将来生じるキャッシュ・フロー等を勘案し、当該固定資産の減損の要否を検討いたしましたところ、当該キャッシュ・フローに比し当該固定資産の額が大きいと認識し、当社が千葉県柏市に保有する固定資産（建物及び構築物）について減損損失を計上すべきと判断いたしましたので、当第2四半期の連結財務諸表上において、減損損失350,318千円が発生することとなりました。

2. 繰延税金負債の取り崩し

当社が平成27年8月に売却を行いました千葉県柏市の不動産売却に関しまして、当社は当社の事業年度平成11年3月期から再評価に係る繰延税金負債を計上しておりますが、この度、当該不動産を売却する事ともない、繰延税金負債の取り崩し（642百万円）の取り崩しを行うこととなりましたのでご報告いたします。

3. 平成28年3月期第2四半期累計期間連結業績予想値と実績値の差異（平成27年4月1日～平成27年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	5,800百万円	1,000百万円	1,000百万円	80百万円	1.64円
今回修正予想(B)	5,990百万円	739百万円	1,171百万円	27百万円	0.57円
増減額(B-A)	190百万円	▲260百万円	171百万円	▲52百万円	—
増減率(%)	3.28%	▲26.00%	17.18%	▲65.47%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	4,892百万円	▲32百万円	9百万円	▲19百万円	▲0.43円

4. 修正の理由

当社連結会計に帰属する主要な4事業において、ファイナンス事業はASEAN地域への進出が堅調に推移したことにより予想よりも売上が急拡大し、ゴム事業ならびにコンテンツ事業につきまして当初予想した売上を獲得することができず低調に推移いたしました。一方、当社の持分法適用関連会社の行う主要な2事業である、和菓子の製造販売を行う食品事業、リゾートホテルの運営行うリゾート事業につきましては、それぞれお客様からご支持をいただき、その業績は順調に拡大いたしました。

これにより、売上高において、主にファイナンス事業が低調であった事業を補う形となり、当初予想を上回る5,990百万円（当初予想数値よりも190百万円増収）となりました。一方、営業利益につきましては、売上高は堅調に推移したものの、今後の事業展開にともなう準備等に使う費用もあり当初予想に届かず739百万円（当初予想数値よりも260百万円の減益）となりました。経常利益につきましては、上記営業利益の減益理由はありましたものの、営業外収益の受取利息の大幅な増加（前第2四半期累計実績と比較し236百万円の増加）や、持分法適用関連会社の行う食品事業、リゾート事業の業績が大きく拡大し、同じく営業外収益の持分法による投資利益の増加（前第2四半期累計実績と比較し93百万円の増加）といった増益要因により、経常利益は、当初予想を上回り1,171百万円（当初予想数値よりも171百万円の増益）となりました。

一方、当期純利益につきましては、上記1.に記載の減損損失350百万円を計上することとしたこと、及び、平成27年8月に行った当社の千葉県柏市の不動産売却利益にかかる未払法人税を保守的に計上いたしましたことが減益要因となりました。一方、当該売却不動産に関連して、売却益の課税に備え再評価に係る繰延税金負債を、当社事業年度平成11年3月期年より計上しておりましたので、当該繰延税金負債の取り崩し（642百万円）が上記減益要因の一部を相殺する形となりました。この結果、当期純利益は27百万円（当初予想数値よりも52百万円の減益）となりました。

5. 平成28年3月期通期連結業績予想の修正（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	11,500百万円	2,000百万円	2,000百万円	150百万円	3.07円
今回修正予想(B)	11,940百万円	1,700百万円	2,340百万円	100百万円	2.05円
増減額(B-A)	440百万円	▲300百万円	340百万円	▲50百万円	—
増減率(%)	3.83%	▲15.00%	17.00%	▲33.33%	—
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	10,786百万円	674百万円	635百万円	92百万円	1.96円

5. 修正の理由

平成28年3月期通期連結業績予想につきましては、上記、平成28年3月期第2四半期連結業績予想値と実績値の差異の理由から現時点で判明している財務諸表への影響額、並びに第2四半期までに発生しました上記減損を考慮して、売上高11,940百万円（当初予想比3.83%の増加）、営業利益1700百万円（当初予想比15.00%の減少）、経常利益2,340百万円（当初予想比17.00%の増加）、当期純利益100百万円（当初予想比33.33%の減少）に修正させていただきます。

なお現時点において、上記法人税等については、今後の推移によって変化する可能性があります。現時点において完全には合理的に予測できないため、予想出来る範囲で最も保守的に計上したと考えております。

以上